
[トレーラの駐車ブレーキ未解除による車両火災防止]
弊社製トレーラの駐車ブレーキ（スプリング式駐車ブレーキ）に関する
自動作動と解除について
ご理解のお願い

平素より弊社製品をご愛用頂き、誠にありがとうございます。

さて、近年発生しております「トレーラの火災」における推定要因のひとつとして「トレーラ
駐車ブレーキの未解除状態での走行」が挙げられます。

これに関連して、あらためて弊社製トレーラにおける駐車ブレーキの操作方法や操作バルブの
機能につきまして下記にご説明いたしますので、ご理解を深めていただき、トレーラの安全運行
へお役立てくださいますよう、宜しくお願い申し上げます。

表 駐車ブレーキバルブ [スプリング式駐車ブレーキの場合] の比較

| タイプ名 | Aタイプ | Bタイプ |
|-------------|---|---|
| 実物例 (写真) |  |  |
| ノブの色 | 黒 | 赤 |
| 操作 | <p>押す： ブレーキが掛かる</p> <p>引く： ブレーキが緩む</p> | <p>引く：ブレーキが掛かる</p> <p>押す： ブレーキが緩む</p> |
| 機能 | <p>(駐車ブレーキ解除状態において)</p> <p>エアタンクのエア圧力が低下していき265kPa (2.7kgf/cm²) 以下になると、自動でノブが押し位置に動き、駐車ブレーキがすばやく掛かる。</p> <p>その後、エア圧力を復帰させ490 kPa (5.0 kgf/cm²) 以上になった場合でも、ノブは押し位置のまま、駐車ブレーキは掛かり続ける。</p> <p>駐車ブレーキを解除するには、ノブを引く必要がある。</p> | <p>(駐車ブレーキ解除状態において)</p> <p>エアタンクのエア圧力が低下していくと、それに応じて徐々に駐車ブレーキが掛かる。</p> <p>その後、エア圧力を復帰させていくと、それに応じて徐々に駐車ブレーキは解除される。</p> <p>(エア圧力の変化によりノブは動かない)</p> |

[お客様へお願い]

- トレーラの駐車ブレーキ解除を忘れて走行した場合、ブレーキの引きずりにより過熱し、最悪の場合車両火災等の重大な事故に至るおそれがありますので、**走行前に必ずトレーラの駐車ブレーキの解除確認をお願いいたします。**

● 日常点検及び定期点検を確実に実施

特に駐車ブレーキバルブからの排気音の異常（いつもと違う）やエア圧力の低下が認められた場合は、トレーラの駐車ブレーキが自動的に掛かっている可能性がより高く考えられますので、解除確認の確実な実施のほか、**エア漏れやバルブの点検整備を早い機会に実施**頂きますよう、お願いいたします。

日常点検及び定期点検について

「[トレーラ定期点検整備の手引き](#)」をご参照ください

[一般社団法人 日本自動車車体工業会へリンクしています]

[PDFファイルが開きます]

駐車ブレーキバルブの排気口からの排気音の状態の点検について

上記「[トレーラ定期点検整備の手引き](#)」の26ページをご参照ください

● 定期交換部品の交換

定期交換部品とは弊社がトレーラの安全を確保する上から、走行や時間の経過に伴った摩耗・劣化する部品の内、通常の点検ではその摩耗・劣化度合いが判定困難なものや、その後の保安を確保し得る期間が予測しにくいものを対象としたものです。車両の機能・性能を確保し、安全にご使用いただくためにも定期交換部品の定期交換をお願いいたします。

定期交換部品について

上記「[トレーラ定期点検整備の手引き](#)」の17ページをご参照ください

[その他関連情報（ご参照）]**[トレーラサービスニュース](#)**

（トレーラの点検・保守や取り扱い上の注意点などのお知らせです）

[一般社団法人 日本自動車車体工業会へリンクしています]

以上